

教職員の「こころの健康」問題に関するアンケート調査の実施

1. 事業の実施報告

(1) 調査研究のねらい

本府をはじめ、全国的に病気休職者及びそれに占める精神疾患による休職者が年々増加している中、教職員が学校業務における、どのような場合に精神的な負担を感じ、どのような支援策を求めているのか等、未然防止の観点からアンケート調査を実施し、今後の取り組みに反映させていく。

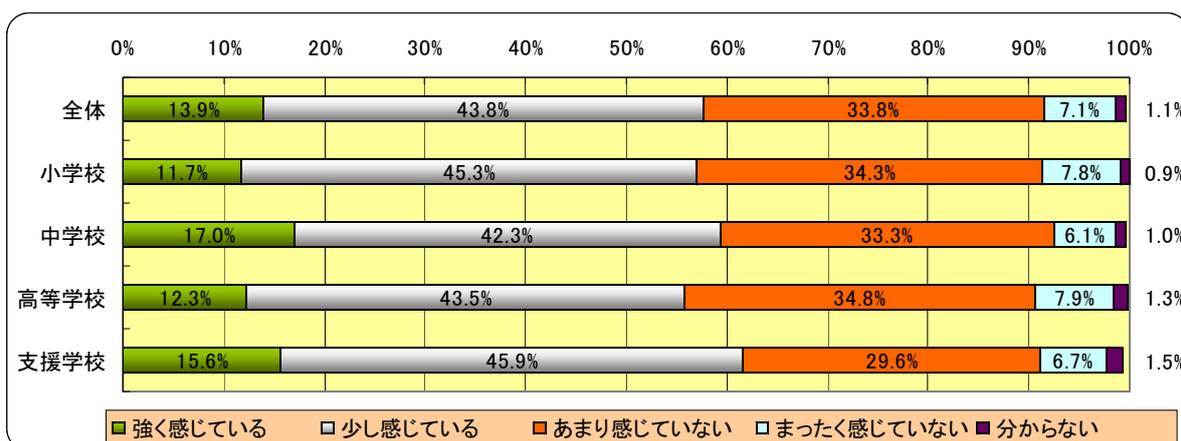
(2) 事業の実施状況

- 対象者 ・ 府立学校教職員1,000名
 ・ 市町村立学校教職員2,000名 計3,000名（無作為抽出）
- スケジュール
 - ・ アンケート実施 〈11月18日〉
 - ・ アンケート回収 〈12月11日〉
 - ・ データ入力委託 〈～1月下旬〉
 - ・ 入力データ集計、分析 〈～3月中旬〉
 - ・ アンケート結果概要の配布 〈 3月下旬〉

2. 調査研究の成果（実施による効果）

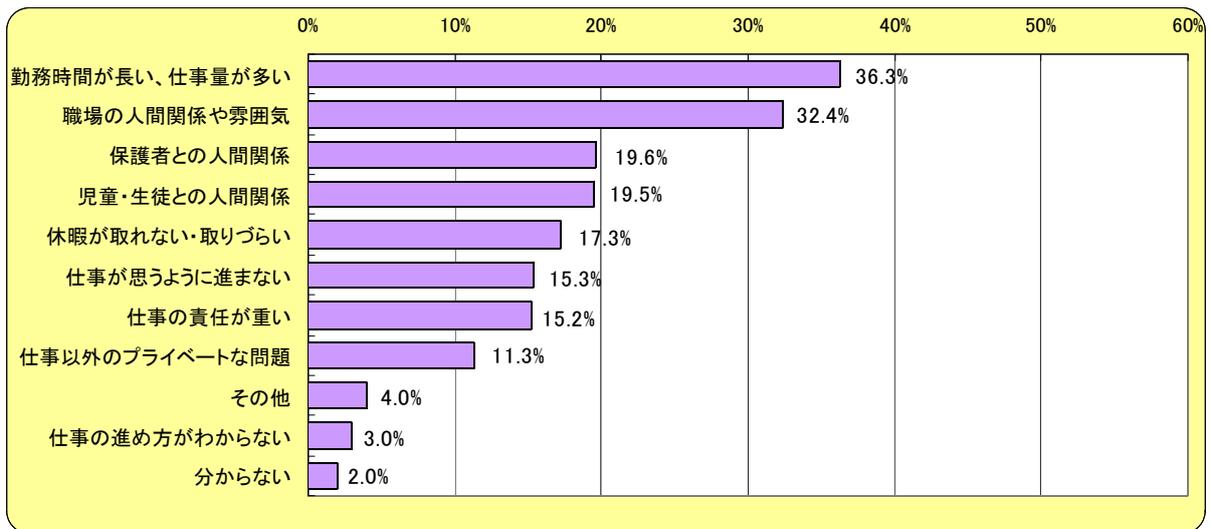
- 教職員の「こころの健康」問題に関するアンケート結果の概要

問 あなたは、「こころの健康」に不安を感じていますか。(校種別)



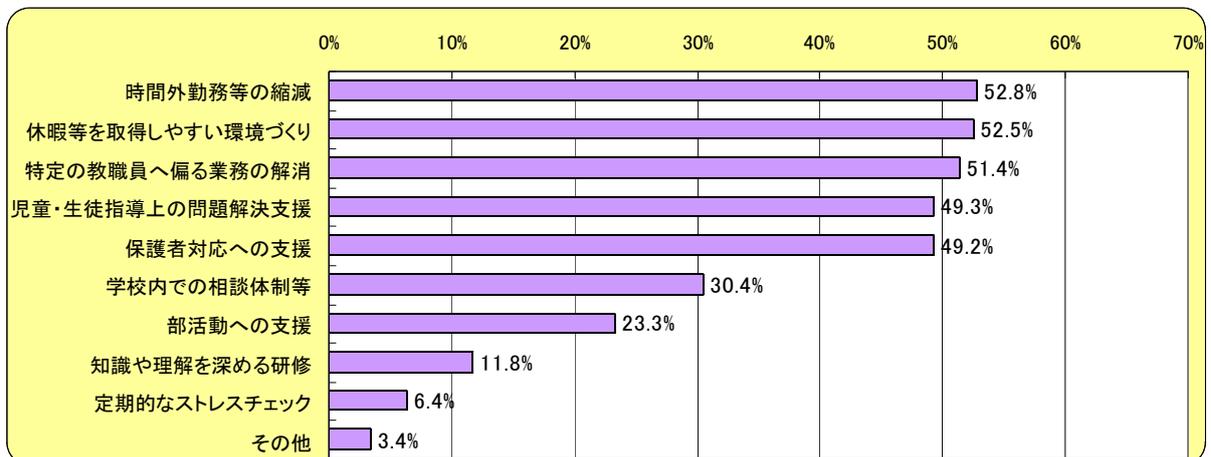
- ☆ 「こころの健康」に何らかの不安（「強く感じている」「少し感じている」）を感じている教職員は、全体で約58%、校種別では、中学校と支援学校において、全体平均より高い。
- ☆ 「強く感じている」と回答した教職員でも、中学校と支援学校において全体平均より高い。
- ☆ 年代別に見ると、何らかの不安を感じている教職員は年代が上になるほど高く、「強く感じている」と回答した教職員は40代が最も高い。

問 その原因は特に何だと思えますか。（「強く感じている」「少し感じている」と回答された方）



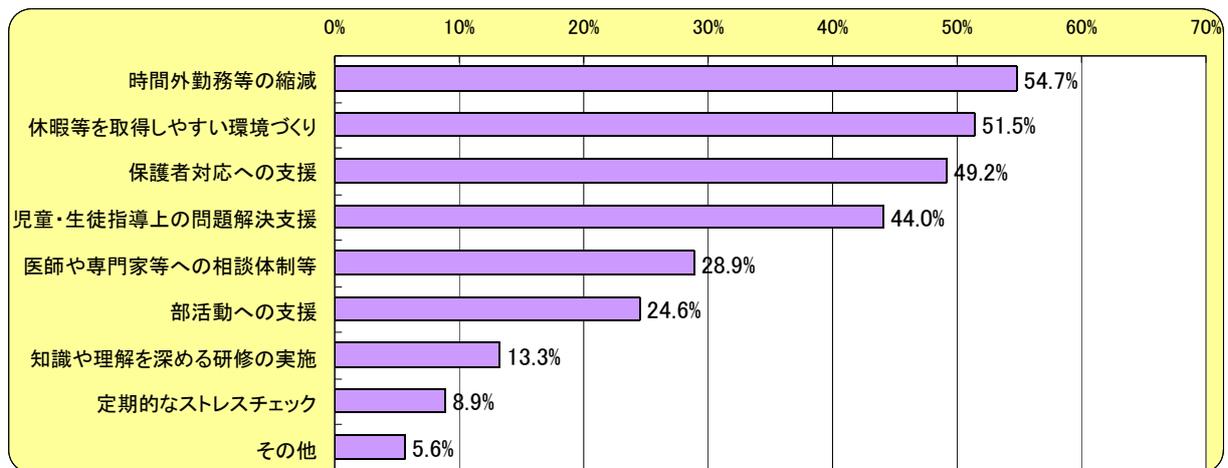
- ☆ 不安に感じる理由について、全体では「勤務時間が長い・仕事が多い」が約36%、「職場の人間関係や雰囲気」が約33%と高い。
- ☆ 校種別で見ると、小・中学校では「勤務時間が長い・仕事が多い」、府立学校では、「職場の人間関係や雰囲気」が高く、特に支援学校では54%を占めている。
- ☆ 「児童・生徒との人間関係」・「保護者との人間関係」について、全体では、それぞれ約20%だが、校種別に見ると、小学校では「保護者との人間関係」、高等学校では「生徒との人間関係」が高く、中学校では、その両方が全体平均より高い。

問 「こころの健康」対策として、学校が取組むべきことは何だと思えますか。※複数回答



- ☆ 全体として、「時間外勤務等の縮減」、「休暇の取得環境」、「特定の者に偏る業務解消」が高く、次いで「児童・生徒や保護者対応への支援」を求める声が多く、何れも約50%以上であった。
- ☆ 校種別に見ると、小学校では「保護者対応への支援」が、中学校では「時間外勤務等の縮減」が、高等学校では「特定の者に偏る業務解消」が、支援学校では「休暇の取得環境」が最も高かった。

問 「こころの健康」対策として、教育委員会が取組むべきことは何だと思えますか。※複数回答



- ☆ 全体として、「時間外勤務等の縮減」、「休暇の取得環境」、「保護者対応への支援」が高く、約50%以上、次いで「児童・生徒指導上の問題解決支援」を求める声が多かった。
- ☆ 校種別では、小・中学校では「時間外勤務等の縮減」が、府立学校では「休暇の取得環境」が最も高かった。
- ☆ 中学校、高等学校における部活動については、支援を求める声がある一方、個別意見では部活動がストレス解消になっているという意見も見られた。

3. 今後の取組予定

- アンケートから得られた教職員の“意識”や“思い”等を十分に分析し、管理職を対象とした研修内容の改善や悩みを相談しやすい職場環境づくりのための方策を検討するなど、様々な機会を捉え、心の健康対策の充実に取組む予定。